

令和4年2月18日

南の風 For Junior80

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

日本女子代表、ワールドカップ予選突破しました！！ 前号の続きになります。

ミドルラインの右側の3人のプレーです。ボールマンがトップの位置とします。同じサイドのロープストの選手がドラッグスクリーン（3Pラインより上のエリアでかける）にいきます。トップが利用してドライブで攻めれば、スクリナーはダイブしてペイントに侵入します。2on2の攻めです。

このとき右ウイングの選手は、ドラッグスクリーンに合わせるように、コーナーダウンします。

次に、逆サイドの2人のプレーです。左コーナーの選手は、右ショートコーナーの選手のドラッグスクリーンに合わせるように、左ウイングの選手にバックスクリーンにいきます。左ウイングの選手はスクリーンを利用してバックカットします。パスが来れば、もちろんシュートです。パスが来なければ、逆サイドへは切れないので、反転して左サイドに戻ります。

トップのボールマンは、ドラッグスクリーンを利用することを第一に考えます。スクリーンが掛かれればドライブでペイントを攻め、ダイブした選手にパスできれば合わせます。

相手ディフェンスがドラッグスクリーンを気にするそぶりを見せれば、リジェクト（スクリーンを使わず逆にドライブする → エクスプロージョン）して攻めることもできます。

また、逆サイドのバックスクリーンでノーマークができればパスを入れます。

このようにミドルライン（リングとリングを結んだ仮想ライン）の、右側と左側でそれぞれ塊をつくり、攻めることになります。それぞれの選手は入り乱れることなく攻めることが原則です。

もし、ドライブしたトップの選手からダイブした選手にボールが入らなければ、右コーナーの選手がウイングに上がりパスを受けます。パスした選手はウイングに上がった選手のディフェンスにスクリーンにいきます。こうして流れを止めることなく攻め続けるようにします。逆サイドはバックスクリーンを利用してバックカットした選手にボールが入らなければ、反転して左側に戻ります。すぐさま、ウイングに上がった選手（バックスクリーンをかけた選手）にバックスクリーにいくこともできます。

また、ウイングに上がっていた選手が、反転して戻った選手のディフェンスにピンダウン（ダウンスクリーンをかける）することもできます。左側の2人はバックスクリーンかダウンスクリーンをタイミングよくかけ続け、ボールマンの動きと合わせるようにします。

右側から左側へサイドを替えるパターンもありますが、ここでは割愛します。

オプションとして、エントリー（攻撃の始め方）をドリブルハンドオフから始めることもあります。

トップのボールマンが、右ウイングに選手とドリブルハンドオフします。ハンドオフでボールを受けたウイングの選手はノーマークならばペイントドライブします。ヘルプディフェンスが来れば、空いた選手にパスします。ハンドオフでボールを受けた選手がドリブルでペイントドライブできなければ、反転ドリブルします。そのときに、ドリブルハンドオフしたトップの選手がすかさずスクリーンをかけます。ドリブルでペイントを攻めます。このプレーはかなり高い確率でノーマークになります。

取り組む価値のあるモーションオフェンスの紹介でした。